



# ARIMASS Letter

[ Association for Risk Management System

危機管理システム研究学会 2000年12月22日

第3号

## 「危機管理」で目標達成度の向上を

危機管理システム研究学会副会長  
山本 正隆（沖データ）

危機管理はもともと文字通りクライシスマネージメントの訳語であった。当時の世界情勢は、核を意識した東西対立の時代で、危機を真剣に考えねばならなかった。しかし「危機」というと一般人は自分に関係ないと思ったり、はじめから手におえないと諦めたりが普通である。

その後「危機管理」は、クライシスより少し柔らかい語感のリスクマネジメントの概念も取り込んだ。ハイリスクハイリターンなどの言葉が一般化してリスクは馴染み易い言葉にはなった。しかしリスクというと保険概念などで使われる確率の世界と考えられ易い。

政治や経済といった我々の仕事環境が、先々何が起こるか分からない、でも何かが起こるとい、いわゆる複雑系の世の中になった。思わぬことが起こる訳で、これは確率では扱えない。クライシスというほど大袈裟なことでもないが、起これば確実に仕事の障害になるので、マネジメントにとっては重大事である。

複雑系の知見の一つは予測不能性である。従って何が起こるか分からない。起こった時の対応は創造性によることになっている。我々のマネージすべきクライシスやリスクは創造性を必要とするものである。創造などという天才のする事だと思える人もいるかもしれないが、複雑系の時代を生きるためには、誰でもがしなければならない事である。またやろうと思えば出来る事でもある。

創造力は人の能力（知力）の一つである。人は古来より自分の能力を道具で高めてきた。知力の道具は言葉に始まり、知識、学問、手法、技法などと進化した。仕事を進める過程で生じる障害を創造的に排除する手法/技法を、科学的に開発/進化させるのがこの学会の使命であろう。

複雑系の時代は、なかなか計画通りに事が運ばない。予算なども三ヶ月も経てば狂ってしまう。クライシスとかリスクとか難しく考えなくても計画実行能力を高め、目標達成度を高める切実な要求があるのである。それは危機管理システム研究学会が開発する知的道具が確実に支援してくれる。

### 目次

「危機管理」で目標達成度の向上を.....	1	事務局からのお知らせ .....	4
第1回大会開催予告・分科会報告 .....	2		

# 危機管理システム研究学会第1回大会開催予告

危機管理システム研究学会第1回大会は2001年5月19日(土)に創立総会開催会場と同じく、武蔵野市吉祥寺の成蹊大学において開催することに決定いたしました。プログラム等については次回の会報4号(2001年3月発行予定)に掲載いたしますので、会員の皆様の、積極的な参加、熱心なる討議を心よりお待ちしております。皆様ご予定を調整されご出席をお願いいたします。

\*\*\*\*\*  
\*\*

## 分 科 会 報 告

### 【危機管理教育実践分科会】

世話人：常任理事 後藤 和廣(三井海上基礎研究所)

1. 開催日時、場所：10月11日18時30分より20時30分まで、三井海上基礎研究所会議室
2. 分科会員(敬称略、50音順)及び出席者

分科会会員：安達 弥八郎、大越 修(出)、貝賀 滋(出)、小島 直樹(出)、後藤 和廣(出)、高木 利勝、  
田端 進、辻 純一郎(出)、樋口 修一郎(出)、村上 處直

ゲスト：佐々木 一郎(出)、中山 達雄(出)

### 3. 内容

#### (1) 前回の論議事項についての確認と補足

議事録を確認し、その内容を理事会に報告したことを補足した。

#### (2) 横浜市立大学での「危機管理関連講座」の件

佐々木一郎横浜市立大学教授をお招きし、2001年秋から予定されている「危機管理関連講座」の構想をおうかがいした。概要以下の通り。

同大学では全学部(商、医、理、国際文化)の学生を対象とした講座「世界の中の日本」を従来より開設している。

最近の諸問題の中には危機管理をベースにしないと解決できない(またはベースにすれば解決しやすい)問題がある。このため従来の講義内容を変更し危機管理を入れた。

各講義内容に共通するキーワードは「地球公共財」である。危機管理というと、ともすれば「守り」の視点から論じられることが多いが、「公共財を提供する」ことにより解決すべき問題も多い(例えば、アジアの危機管理の問題は防衛の問題として取り上げられる《守り》ことが多いが、東シナ海の環境浄化問題を日、中、韓3国の自衛隊、軍隊が共同で解決する《公共財の提供》ことがあげられる)。具体的な講義内容は各講師にお任せする。

プログラム(案)はたたき台として論議していただきたい。

提案を受け、講義のあり方(例：期末論文はどのような内容を期待しているか?)、地球公共財の概念、追加すべき講義項目(例：医療過誤リスク、情報インフラ、医療保険、高齢化問題)等を論議した。

最終的には本日の説明を受け、プログラム(案)に沿って各会員が検討し、意見があれば持ち寄ることにした。また適切な講師候補を知っている場合は持ち寄ることにした。

2001年4月にはシラバスに講義内容を明確にするので、1月頃には少なくとも講義内容を確定しておく必要があると考えられる。このため、意見交換はemail等を中心に行い、分科会会員間で調整を取る必

要がある場合は別途分科会を開催することにした。

## 【リスクマネジメント・システム研究分科会】

世話人：常任理事 指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング）

- 1.開催日時、場所：9月26日火曜日18時30分から20時30分まで、新東京法律事務所
- 2.分科会員出席者(15名)

池内正英、小沢秀雄、北沢義博、坂 清次、指田朝久、五島光郎、長井健人、中山達雄、野村 徹、樋口 修一郎、福田久治、松本次男、藪 孝雄、横井 靖、吉川賢一

### <第2回会合報告>

今回は通産省工業技術院のご厚意により、現在検討中のリスクマネジメントシステム規格の原案を分科会会員に事前に配付することができましたので、その原案を読んで各自の疑問点や感想を意見交換しました。今回は特に用語の使い方や定義について各自それぞれ概念が違うことが問題視されました。これらをもとに第3回では、現在検討中のISOの用語の検討状況の説明を聞くこととし、また規格の意味を理解するために、あるモデル企業を選定し具体的にひとつおりの規格を当てはめていくこととしました。

### オピニオン

いよいよ JIS 規格案の読み合わせの第二回会合。目は通したものの「体系化はされているが相当概念的な代物」、皆さんのご意見拝聴と観念して出席。最初はターミノロジーの議論から始まる。具体的な適用例が欲しいとの意見。小生の想いだけではなかった、と安心。「ISO の方向性は一般論を規定」との意見にごもつとも。その後皆さんの業界での経験や海外との比較が挙げられ、門外漢の自分にも参考になるなと議事進行の巧みさに感心した次第。

会員 吉川 賢一（JAL インフォテック(株)）

危機管理の重要性が一層高まりつつあります。かって1995年1月17日の阪神大震災は、死者5,500名以上という未曾有の被害に達した。当時関西オフィスに勤務し、六甲、芦屋、三宮の建物の倒壊した姿を未だ記憶に焼けています。日本企業の現状は組織変更、分社化に伴って情報ルート面も再構築する必要がでてきております。今後、当学会を通して、リスクマネジメントの規格要求事項の理解と、維持管理を踏まえた構築にあたりたい。

会員 藪 孝雄（コクヨ）

## 【リスク情報交流分科会】

世話人：常任理事 鈴木 敏正（日本総合研究所）

### <活動報告>

世話人（とりわけ、世話人の一人、鈴木敏正）の怠慢により、この間の活動は、停滞してしまいました。これまでに、ネットの整備が完了し、現在、運用方針、活動細目などの検討を進めているところです。何分初めての試みのため、やってみて課題を抽出し、改善を繰り返しながら前に進んで行こうとは思っているのですが、それにしても基本的枠組みだけは明らかにしておこうと思っていたのですが、その時点で、早、悩んでいます。近い内にたたき台を提示したいと考えています。また、遅れていた季節ごとの分科会を下記の通り開催したいと思います。

万障お繰り合わせの上、ご参加ください。元気なお顔にお目に掛かれることを楽しみにしております。なお、この間も新しい分科会メンバーを幾人かお迎えしました。さらなる新人メンバーのお越しをお待ちしております。(第2回分科会開催のお知らせ)

日時 2001年1月19日(金曜日)6時から8時

場所 日本総研プレゼンルーム

(千代田区一番町16 地図の必要な方は鈴木または、長井(日本総研)まで連絡ください)  
分科会終了後、恒例の懇親会

## 事務局からのお知らせ

### 1.分科会日程

第1分科会(教育実践):第3回研究会2001年1月開催予定

第2分科会(RMS):第3回研究会2000年12月8日(金)18時30分から日新火災海上保険本店にて開催済

:第4回研究会2001年2月7日(水)18時30分から日新火災海上保険本店

第3分科会(情報交流):第2回研究会2001年1月19日(金)18時から20時  
日本総研プレゼンルーム

### 2.新入会員紹介

氏名	所属機関・職名
上村 良澄	(株)富士総合研究所
川端 一博	エーザイ(株)
多田 浩之	(株)富士総合研究所
松木 洋介	(株)メルク
小島 修矢	大東京火災海上保険(株)

### 3.ホームページ関連

ホームページには、各種お知らせやアリマスレターのバックナンバーなど色々な情報がアリマス。主な検索サイトで「危機管理システム研究学会」とキーワード検索することも閲覧できます。

UPL(ホームページアドレス)<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

なお、会員限定ページにつきましては、コンテンツが充実するまで、閉鎖させていただきます。

### 4.会費納入のお願い

2000年度の会費の納入をお願い申し上げます。未納の方は至急お振込み下さいますよう重ねてお願い申し上げます。【納入方法:あさひ銀行横浜西口支店 普通預金 0445130 口座名:危機管理システム研究学会】

### 5.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403

.045-440-6778 FAX. 045-440-6777

e-mail: [arimass@muh.biglobe.ne.jp](mailto:arimass@muh.biglobe.ne.jp)

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

平成12年12月22日発行

印刷株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571